

歯科技工士にもできる QOL 向上支援

～ 欠損患者さんへのサポート～

萩原圭子

昨今、エピテーゼやソマトプロテーゼの製作には様々な業種の技術者が携わっています。歯科技工士はもちろん義肢装具士、特殊メイクアップアーティスト、さらには美容師や介護福祉士など物を作る業種とはかけ離れた職業についている方々も多くいらっしゃいます。

エピテーゼやソマトプロテーゼなどの補填修復物製作時における歯科技工士の役割の重要性とは技術面だけでなく歯科技工士として培ってきた知識や信頼性でしょう。さらには人工乳房など女性のセンシティブな部分の補填修復物製作において同性あることで安心感をあたえられるなど女性歯科技工士としての特権は多くあると思います。

現在日本人のエピテーゼに対する認知度の低さ、不足しているサポートなど抱えている問題はたくさんあります。今後エピテーゼやソマトプロテーゼなどの補填修復物を提供する側（技術者）、サポートする側（医療機関や保険会社）、利用者（患者さんとその家族）の三者それぞれの相互理解が深まることでより良い未来が待っていることでしょう。

今回の講演では私がエピテーゼやソマトプロテーゼを製作するようになったきっかけや製作する上での技術以外に、利用者さんとの向き合い方接し方などコミュニケーションがいかに大事か症例を交えてお話ししたいと思います。

また、お話の後エピテーゼ・ソマトプロテーゼのサンプルを直に見て触っていただきご質問等お受けしたいと思います。

演題

『女性が歯科技工士を続けるために』

～女性技工士と共に働くみなさんへ～

抄録

近年、若い技工士が減少している中、女性技工士の割合は増加傾向にあります。

少し前は「雇いづらい」「育てにくい」と敬遠されてきた女性技工士の労働力も軽視できないものになってきました。

本来、歯科技工は女性にとっても向いている仕事だと思います。

しかし多くの女性技工士・経営者ともに、「続け方」「雇用の仕方」を模索しているのが現状だと思います。

今回、子供が生まれてからは13年の私のたどった技工歴を軸に、産休・育休、保育園、職場復帰後の働き方、会社に協力してもらったこと、卒後教育機関、悩みと転職、これからの働き方や思い、などなど多くの若い女性技工士の皆さんが漠然と不安に思っていることや、共に働く会社の同僚・社長に知っておいてほしかったことを、私の経験を通してお話しさせていただきます。

女性に限らず、若い技工士の方や経営者の方にもそれぞれの「続け方」「学び方」「育て方」「雇用の仕方」の道を見つけ出すヒントとなれば幸いです。